【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果

達成度(評価)

- A: 十分達成できている
- B: おおむね達成できている
- C: やや不十分である
- D: 不十分である

学校名	佐賀県立致遠館中学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育目標に基づいた本年度の重点目標は概ね達成できていた。 ・次年度に向けて、本年の取組をさらに深化させ、「知・徳・体」の充実に向けた教育活動を展開していきたい。 ・本年度の課題を精査し、各種業務を精選・改善することで、行き届いた教育活動につなげたい。また、働きやすい職場づくりや働き方改革を推進する。
------------------	--

2 学校教育目標	未来の創造と発展に力をつくす、豊かな人間性と進取の気性に富む若人を育てる。
----------	--

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①授業・部活動・学校行事等とおして、「知・徳・体」のバランスのとれた若者を育成する。 ②学校生活や様々な活動とおして、「生徒の生きる力(自ら判断し、適切に行動する力・困難に打ち勝つ力)」を醸成する。 ③高い志をもち、主体的に進路目標を定め、その実現に向け、生徒が学習に精力的に取り組み、教職員が的確な指導・支援を行う。 ④教職員にとって働きやすくてやりがいを感じる職場づくりと、1ヶ月の時間外在校等時間を45時間以内とする働き方改革を推進する。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目			最終評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組		
			達成度(評価)	実施結果	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業やITを実施し、個に応じた指導の充実を図る。 ・補充学習や発展的学習を積極的に取り入れる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・4月実施の全国学力・学習状況調査では平均正答率が国語86%、数学78%で、全国平均国語69%、数学51%を大きく上回った。 ・少人数授業やITの実施で個に応じた指導が可能となり補充学習や発展的学習を実施。また、夏季・冬季学習会では補充・発展的内容に取り組んだ。
	○基礎学力の充実	○授業に対する満足度・理解度を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・復習用の課題や確認テストなどを活用し、基礎学力の定着を図る。 ・定期考査や模擬試験などで学習の定着度を把握し、実態に応じた指導を適切に行う。 ・授業アンケートで生徒の学習意識を把握・分析する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況調査では満足度・理解度ともに生徒回答は「そう思う」「ややそう思う」を併せて、98.1%と高い結果であった。 ・復習課題や確認テストを活用して学習実態を把握し、生徒の実態に適した補充的内容や発展的内容に取り組む指導ができた。
	○自発的学習習慣の定着と宅習の充実	○平日2時間、休日4時間の週18時間以上の家庭学習時間を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習状況を把握し、適切に指導を行う。 ・学年、教科が連携して計画的に課題の量を調整し、生徒に提示する。 ・C-timeを活用し、自発的学習の定着を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・土日の学習時間は全国平均を上回っている。学年と教科が連携して課題量の調整や内容の精選を行った。 ・電子黒板・学習用PCを活用した授業改善を行った。また、リモート授業も適宜実施してプリントなどの送信も行った。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会的、倫理的な正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒を80%以上にする。 ○図書室の貸出冊数を一人20冊以上にする。 ○豊かな心の醸成につながる講演会を年1回以上行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・人権講演会や道徳に関するアンケートの実施。 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施。 ・図書委員会の活動とおして、図書室の利用を促進し、読書の啓発活動を行う。 ・各学年会・生徒指導部会・教育相談部会を定期的に開催し、情報共有を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年会・生徒指導部会・教育相談部会を定期的に開催し、生徒情報を共有して個に応じて適切な対応を行った。 ・本の貸出冊数は一人あたり25.2冊だった。図書館や読書会等を通じて生徒の読書意欲を喚起した。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ重大事案の件数0を目指す。 ○いじめ問題の解消率100%を達成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート(年2回)の実施。 ・週1回程度の生徒指導部会を行い、生徒の実態を継続的に把握する。 ・問題が発生した場合は、生徒指導、学年団、教育相談などが連携し、組織的に対応する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度のいじめ認知件数は17件。未解消の事案もあり、いじめの実態把握や対応について今後も改善の必要がある。 ・黒板調査(年2回)、生活アンケート(毎週)を実施し、生徒や保護者からの相談把握後、速やかに担任・学年団、関係分掌が連携した情報共有を行い、的確に対応できた。必要に応じて、関係機関と連携を図る必要な支援に結び付けた。
	○人権・同和教育の推進	○人権が尊重され生活できていると感じる生徒を100%にする。 ○新たな人権課題を把握し、解決しようとする姿勢を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・人権意識に関するアンケートの実施。 ・職員研修を実施し、職員の人権・同和教育に対する意識を高める。 ・各教科、特別活動における人権学習を充実させ、生徒の人権意識を高める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・92%の生徒が人権作文に応募する等、生徒の人権意識が高まった。 ・人権集会で、生徒作成のワークシートや人権学習の成果発表等を通して人権意識を啓発できた。 ・人権・同和教育に係る人権・同和教育講演会や職員研修を実施して、人権・同和教育に対する意識を高めた。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○朝食喫食率を95%以上にする。 ●「健康に食事は大切である」と考える生徒を100%にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「保健だより」などを活用し、睡眠・食事の重要性を伝え、生徒の意識を高める。 ・朝食喫食率調査やマルク給食等とおして、食育を推進する。 ・致遠館手帳の記入を徹底し、指導に有効活用することで、規則正しい生活習慣の定着を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートでは、97%の生徒が「健康に食事は大切である」との認識をもった適切な食習慣を身につけていると回答。また、朝食は100%の生徒が大切だと回答し、喫食率は98%で目標達成に至った。 ・「保健だより」を毎月発行し、睡眠・食事の重要性を伝え、 ・生徒の情報を職員間で共有し、保健室での対応に生かした。
	○部活動(社会体育を含む)や課外活動への意欲的な参加	○部活動(社会体育を含む)への参加率を90%以上にする。 ○部活動計画に基づく休養日の実施率を100%にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入部期間を設けるなど加入を促進する。 ・ボランティア活動等の課外活動への参加を促す。 ・部活動休養日調査を毎月行い、「部活動の在り方に関する方針」に沿った休養日の設定を徹底する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動参加率は社会体育も含め9割を達成した。 ・生徒会を通じて課外活動の参加を積極的に促した。 ・部活動休養日調査を毎月行い、「部活動の在り方に関する方針」に沿った休養日の設定を徹底できた。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	<ul style="list-style-type: none"> ・週1日は定時退勤日を設ける。 ・業務記録を週ごとに確認し、職員の時間外在校等時間の自己管理を徹底する。 ・会議や行事の縮減と業務の効率化を図る。 ・部活動指導は年間計画に基づき行い、休養日を適切に設ける。 	B
○教職員間の信頼・連携の強化と働きやすい職場づくり	○「働きやすい職場である」と考える職員が90%以上。	○「働きやすい職場である」と考える職員が90%以上。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員アンケート(年1回)の実施。 ・ハラスメント研修(年3回)の実施。 ・月1回のゼロの日を設定し、教育公務員としての自覚を再確認する。 ・校内での職員の相談体制の周知徹底。 ・衛生委員会の充実。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「働きやすい職場である」と答えた職員は90.9%であり、目標を達成した。 ・年度当初に職員の相談体制の周知を図り、ハラメン研修を実施して職員からの相談にも適宜対応できた。 ・月1回、ゼロの日を設定し教育公務員としての自覚を促した。 ・衛生委員会を毎月開催し、産業医の指導・助言を得て働きやすい職場づくりについての情報交換を行った。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組		最終評価	
			達成度(評価)	実施結果		
○中高一貫教育の充実	○中高6年間を見通した教育課程の編成と実践	○必要な基礎学力・応用力の育成。 ○中高6年間を見通したより良い教育課程の編成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア部会や中学校連絡会において、本校により適した教育課程について検討を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校連絡会を毎月実施し、全国学力・学習状況調査の結果の分析など、その都度情報の共有、課題の検討・改善を行った。 	
	○中高6年間を見通したキャリア教育の充実	○学校評価アンケート「中高一貫校の特色を感じるか」「生徒に応じた進路指導をしているか」において肯定的な回答をした生徒をともに80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート(年1回)の実施。 ・キャリア部会などとおして、中高職員の共通理解を図り、キャリア教育事業の効果的な運営に努める。 ・ビッグアップ面談等を通じ、進路選択に関して個に応じた適切な指導を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート「生徒に応じた進路指導をしているか」では肯定的な回答の生徒は90.9%であった。 ・キャリア教育事業は職員と共通理解を図り、外部講師の講演会や職業人と語る会を実施して貴重な経験となった。 ・夏季休業中に中学3年生ではビッグアップ面談を行い、普通科、理数科など進路選択に関して生徒に適切な助言を与えられたことができた。 	
◎志を高める教育	◎主体的に行動する姿勢と自律心の養成	◎「さがを誇りに思う教育」を推進し、「佐賀に愛着を持つ」生徒を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間や学校行事等とおして、郷土に関する学習を実施する。 ・エリアスタディやボランティア活動によって地域との連携を深め、郷土のこころを知る機会を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間や学校行事で、郷土に関する学習を行い佐賀の事を学ぶことができた。 ・エリアスタディ・Jr.課題研究の取り組みで、1年生は佐賀、2年生は日本、3年生はグローバルな視野で研究を行い佐賀に愛着を持つ生徒が80%以上であった。 	
	○SSH事業の活用	○トライアル/Jr.課題研究	<ul style="list-style-type: none"> ・「トライアル」/「Jr.課題研究」/「探究基礎」において、「試行錯誤から学ぶ力」や「協働的に取り組む姿勢」の育成につながる指導法の開発に取り組む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「探究基礎」では、ベーパーハウスの強度などのマニファクチャリングメソッドを通して、試行錯誤から学ぶ力や協働的に学ぶ姿勢を育成した。Jr.課題研究(サイエンス)では、高校教員が指導に入り、高校2年生での課題研究につながる指導を通して研究発表を行った。 	
○教育の質の向上	○主体的な学びを重視した授業の推進	○意欲的・主体的に生徒が取り組めるよう授業改善を進めた教員を100%にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、公開授業を実施し、指導力の向上を図る。 ・生徒による授業評価を実施し、その結果に基づいて、授業の改善を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善を進めた教員は95.2%、ICT活用に積極的に取り組んだ教員は90.5%。 ・年間を通して、計18回の公開授業及び授業研究会を実施。教科や中高の枠を越え、教員が相互に指導力を高める研修の場を設けた。 ・「学校は学力向上のための適切な指導ができていると思いますか」との項目は56%と前年比で0.35ポイント上昇。授業改善の取組の成果が現れた。 	
	○ICT活用教育の推進	○主体的に情報を収集し、発信できる生徒を100%にする。 ○ICTを活用して、知識・技能を深め、自らの資質向上に生かそうとする生徒を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用能力の向上につながる効果的な学習指導法を追求する。 ・「エリアスタディ」や「Jr.課題研究」等を通じて、情報収集力・分析力・プレゼン力等を育成する。 ・英検等の資格取得のための学習や部活動におけるICTの活用を推進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「SSH」/「エリアスタディ」/「Jr.課題研究」では、全生徒が情報収集・プレゼン作成のためにICT機器を活用した。電子黒板での発表やPC活用のレポート作成など、研究結果を全体で共有し、99.1%の生徒が有用であると回答した。 	

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標に基づいた本年度重点目標は概ね達成できたが、基礎学力及び応用力の向上と業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減についてはさらに推進が必要である。 ・次年度に向けて、本年の取組をさらに深化させ「知・徳・体」の充実に向けた教育活動を展開し、自発的学習習慣の定着や主体的な学びを重視した授業を構築していきたい。 ・本年度の課題を精査し、各種業務をさらに精選・改善することで、行き届いた教育活動につなげたい。また、働きやすい職場づくりや働き方改革を今後も推進する。
----------------	--